# 四天王寺大学

[ SHITENNOJI UNIVERSITY ]

次世代を担う「教師力」を 育成する改革を実践。 キーワードは "ゆるやかな進路選択"



授業力とともに人間としての成長も促す教育が特色。

四天王寺大学は、2024年4月に文学部(仮称)新設、人文社会学部の社会学部(仮称)への リニューアルなどの改革を実施予定だ(届出中)。同時に、教員養成に高い実績を誇る教育学部 でも、"ゆるやかな進路選択"を可能にする新たな制度を導入する。この新しい制度とはどのよう なものなのか、この改革のねらいはどこにあるのか。教育学部の佐藤美子学部長に話を伺った。

取材・文/伊藤敬太郎 撮影(7ページ)/山田紗基子

# 取得する免許は入学後2年次進級前に決める

大阪府羽曳野市にキャンパスを置く四天王寺大学は、人文社会学部、教育学部、経営学部、看護学部の4学部(2023年度まで)を擁する私立大学だ。前身である四天王寺高等女学校が設立されたのは1922年(大正11年)と歴史は非常に古く、2022年には創立100周年を迎えている。

このように長い伝統を誇る同大学は、一方で、時代の変化に対応した改革にも積極的に取り組んでいる。2024年度には、文学部(仮称)が新設され、社会学部(仮称)が人文社会学部からリニューアル。これによって同大学は文学部、社会学部、教育学部、経営学部、看護学部の5学部体制となる。さらに今回の改革の大きな柱が、教育学部教育学科のカリキュラム改革だ(図1)。

通常、教育学部に進学する場合、入 学時点で取得する免許の種類も決め る必要がある。しかし、四天王寺大学の 新制度では、取得免許は未定のまま入学し、入学後に時間をかけて目標を定め、2年次から6選修のうちいずれかを選択するという体制になる。また、数学または理科の免許を目指せる教育学部は西日本の私立大学では初めて。同大学教育学部の佐藤美子学部長は、今回の改革について次のように語る。



教育学部 **佐藤美子**学部長

「高校生の段階では『先生になりたい』という希望はあっても、複数の免許があ

## 図1 四天王寺大学で選べる選修・取得できる免許

中・高のいずれかの免許を併せて取得する必要があります。



## 図2 1年次から現場実習を経験できる「教師力」養成システム



## 1年次

#### ハロースクール・ ハローナーサリー

1年次の冬学期に行う半日の実 習。小学校・中学校・保育園で授 業を参観し、子どもたちと触れ合っ て気づきを得る機会となる。



#### 2年次

## インターンシップT・IT

小・中学校や幼稚園などで実施さ れるインターンシップ。児童や生 徒に対しての理解を深めて、モチ ベーションを高める。



### 3年次

#### 教育実習・ インターンシップⅢ

3年次は、教育実習およびインタ ーンシップⅢを実施。 教員として必 要な実践的指導力などを身につ けていく。



#### 4年次

#### 教育採用試験に おけて

教員採用試験対策の総括として 「思考力・判断力養成講座」「教 採直前対策講座」を実施。自主 勉強グループでも対策を進める。

るなかで、どれが自分に合っているのか というところまではなかなか判断しきれ ません。教育現場に関する知識もまだ ありませんから、それも当然のことです」

## 多様な学校種の教育を 「学校教育入門」

教育学部では、以前から小学校教 育コースの中に同じように2年次から プログラム選択ができる制度を設けて いたが、その仕組みを拡大した形だ。 このように段階を追って、学びながら 自分の未来像を明確にし、目標を絞り 込める"ゆるやかな進路選択"が可能 になったことで、学生はミスマッチの確 率を減らせる。

メリットはそれだけではない。

「先生になるための学びは決して楽 ではありません。しかし、1年次にさま ざまな授業や私たち学部の教員、現 場の先生方からの話を涌して、教職 に必要なものは何か、自分はそのため にどれだけのことを学ばなければなら ないのかを理解し、そのうえで自分の 目標を時間をかけて決めることができ れば、目標そのものがしっかりとしたも のになり、苦しいときにも乗り越える力 になるはずですし

具体的には、1年次の前半(1セメス ター)に「学校教育入門」という科目を 設置。この授業ではさまざまな学校種 の教員が指導にあたり、学生はそれぞ れの特色を理解することができる。この 過程を経て、1セメスターの終わりに進 路を仮決定し、1年次の後半(2セメス ター)は、一部専門の学びをスタートし ながら、自分の道をしっかりと定め、1年 次の終わりに選修を最終決定する。

「この進路選択のプロセスでは、私た ち教員が学生の希望も聞きながらしっ かりとサポートしますし

## 教育現場で豊富な経験を 重ねることができる

また、中学・高校の理科・数学の免 許を教育学部で取得することにも大き な価値があるという。

「教育学部では、今の学校教育が抱 えるさまざまな課題、子どもたちの特 性など、教員としての基盤となる知識 を幅広く身につけることができます。今 は教育現場の課題も複雑化・多様化 していますし、授業の中でも、科目横 断的な指導が必要になっています。 教員に求められる専門性の幅も広が っていますから、教育学部で学ぶこと の意味は大きいと思います」

学部の専門性の幅を広げることに 関しては、例えば、「理科クロスカリキュ ラム研究 | 「地域と生活の科学 |といっ た複数の分野を融合した科目を設置 し、1つの事象をさまざまな角度から 多面的に捉え、探究的な学びの指導 力を養成する。なお、このような分野 横断的な学びは、新設される文学部 でも学科横断型のクロスオーバー・ラ ーニングとして導入されている。

また、教員としての専門性の幅を広 げるために、免許のダブル取得をバッ クアップする体制も整っている。

「学生のなりたい教師像に応じて、例 えば、小中高連携を意識して、中学・ 高校理科+小学校といったプランを奨 めることもあります。特別支援学校の 免許とのダブル取得というケースも多 いですね。実際に多くの学生はダブル 取得を目指して学んでいます」

もう一つ、四天王寺大学教育学部 の大きな強みとなっているのが、実践 学習の豊富さだ(図2)。1年次から現 場に触れる機会があり(ハロースクー ル)、3年次の教育実習以外のインター ンシップも充実。2年次は必修、さらに 卒業まで、希望により実践体験を積む ことができる。教員としての実践力を養 う意味でも、最先端の教育現場の課 題を知るうえでも、この実践重視のカリ キュラムがもつメリットは大きい。

次世代の教員育成のために「伝統 +改革 | によって特色ある教育を提供 する四天王寺大学教育学部。今後、 同学部がどのような教員を輩出してい くのか、期待は高まるばかりだ。

### 教員輩出の実績

## 西日本でトップクラスの小学校教員就職実績

## 2022年度は70人が 教員採用試験現役合格

四天王寺大学の強みの一つは教員 採用試験合格実績。過去10年間では 1,977人の教員を輩出しており、2022年 度は、卒業生を含む合格者総数が156 人。このうち現役合格者数は70人に上 る。メインは小学校教諭(53人)だが、 養護教諭(2人)や中学校・高等学校教 諭(15人)も輩出している。小学校教員 就職実績は、西日本トップクラスで、全

国では16位だ。

その実績を支えているのが、教職教育推進センターが実施する教員採用試験対策の課外講座。基礎力を養うための教採攻略講座、自分のペースで学習ができる教採e-learning講座、夏期・春期の集中講座を設けており、4年間を通して教員採用試験合格の力を養える体制だ。このほかにも、センターでは教員就職に関する相談、教育委員会から担当者を招いたガイダンスなどを実施している。

## ○ 令和4年度教員採用試験合格者 (卒業生を含む)

156名

- ・小学校教諭…113名・中学校・高等学校教諭…323
- ·養護教諭…9名
  ·特別支援学校教諭…2名

直近10年間での教員輩出数

1,977名

※四天王寺大学調べ。幼稚園教諭・保育士含む ※令和5年3月現在

### 卒業生インタビュー

## 大学での豊富な現場経験が教員としての実践力につながった

## 人間力を磨くことの 大切さも教わった

「先生になりたい」という希望をもつようになったのは中学3年生のときですね。小学校や中学校での多くのいい先生との出会いが大きかったです。なかでも小学6年生のとき、私はけんかっ早い子どもだったのですが、他の学校の児童と揉めたとき、担任の先生が頭ごなしに叱るのではなく、手を出すのを我慢できたことを褒めてくれたんです。そ



2019年3月卒業 大阪市立大宮小学校教諭 **橋口翔平**さん

のとき、自分を肯定してもらえた気持ち になり、「先生ってすごい仕事だな」と感 じるようになったんです。その記憶がず っとあったんですね。

## 就職実績を重視して 進学先を選択

教員就職の実績を重視して四天王 寺大学を選びました。自分の夢に直結 しやすいと感じたんです。

四天王寺大学では、教育実習だけでなく、インターンシップなども通して、現場で多くの経験を積むことができました。学内でも模擬授業をやるのですが、それだけでは限界があります。現場ではいろいろな先生がそれぞれに工夫して授業を行っているので、一人ひとりの先生の授業がすべて参考になりました。そこで学んだことを模擬授業に応用することで、現場で使える力がだんだんと養われていったと思います。

授業のテクニック的なことだけでな く、人間として成長することの大切さも 四天王寺大学で教わった大切なことで す。人間として未熟だと子どもにも見抜 かれるということは繰り返し指導されてきました。そのうえで子どもを一人の人間として向き合い、相手に寄り添ってコミュニケーションすることを今も強く意識しています。

## 子どもの変容を間近で 見るのがやりがい

小学校の先生のいちばんのやりがいは、子どもたちの変容を間近で見られることですね。小学生は1年間でいろいろなことができるようになりますから。こんなに字が上手になった、こんな計算ができるようになったという一つつの成長を子どもたちが自分自身で実感したときの、喜びに満ちた子どもの表情を見たときが何より嬉しいです。その積み重ねで、この先この子たちがどのように成長していくのだろうと想像するとワクワクしますね。

今、教員になって4年目なのですが、 まだまだ授業力は磨いていかなければ と感じています。そのため、ほかの先生 の授業を見学し、研究するなど、今も 日々努力を重ねています。